

令和3年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施)	総合評価 (3月29日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①専門性を向上させ、キャリア教育を充実させるとともに、共通教科・科目を適切に設置した教育課程を作成する。</p> <p>②商業教育の特長を明確にし、普通科との併置の特性をいかした教育活動を検討し、新校計画につなげる。</p>	<p>①組織的な授業改善をさらに推し進め、生徒が達成感を味わえる授業づくりを目指す。</p> <p>①新型コロナウイルス感染症対策に伴う学習保障のための教材作成に関する理解を深める。</p> <p>②新校や新学習指導要領を踏まえた令和4年度以降の教育課程を充実させる。</p>	<p>①生徒同士が双方向に意見を表明できる場面づくりと、振り返りの機会を意図的につくる。</p> <p>①各教員が取り組んだ工夫を共有できるよう、教材の共有や気軽に授業見学できる仕掛けをつくっていく。</p> <p>②両校の魅力を見直し、新校コンセプトに基づいた新たな学びの幅を広げる教育課程を検討する。</p>	<p>①生徒による授業評価で、「他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた」の回答で「当てはまる」が75%以上を達成できたか。</p> <p>①G Suiteを活用した教材を共有し理解を深めた教員が60%を達成できたか。</p> <p>②令和5年度と、令和6年度の教育課程が設定できたか。</p>	<p>①授業評価の「他者の考えを知ることにより、自らの考えを広げ深めることができた」において、回答に占める「かなりあてはまる」「あてはまる」の割合は78.5%であった。</p> <p>①Google Meetを活用した授業について研修会を実施し、運営上の留意点や教材作成に関する共通理解を深め、オンライン授業を実施した。</p> <p>②新校コンセプトや新学習指導要領を踏まえて令和4年度の教育課程表を作成した。</p>	<p>①1人1台パソコンの導入を踏まえ、生徒がICTを活用する授業展開の工夫を研究し、生徒が主体的に学ぶ学習活動を充実させ、生徒の達成感を上げる。</p> <p>①ICT機器を活用した授業実践の取り組みをさらに促し、教員間でも情報共有を図る。</p> <p>②新学習指導要領に沿った授業の実施に伴い、「単元の指導と評価の計画」を作成する。</p>	<p>①オンライン授業について意欲的に研究していることがわかり評価できる。</p> <p>①コロナ禍の中でも78.5%の生徒が肯定的な自己評価をしていることはすばらしい。</p> <p>①デジタル化や通信技術が進んでも、人対人の直接のコミュニケーションを大切にしてほしい。</p> <p>②新校については令和5年度、6年度の教育課程を早く作成し、広報に努めてほしい。</p>	<p>①「表現活動の充実と自発的に考え参加できる授業づくり」を目標に、1年間の授業を通して生徒の思考力を深める授業を行うことができた。今後は、毎時間の授業の目的を明確にして達成感のある授業づくりをさらに進めていきたい。</p> <p>①オンライン授業実施に伴い、Google Meetの使い方研修会を実施し情報共有する中で、授業の内容を充実させることができた。しかし、パソコン操作が苦手な教員に対しては、技能向上のため研修の回数を増やす必要があった。</p> <p>②新校コンセプトや新学習指導要領を踏まえて、令和4年度の教育課程表を作成した。令和4年度を基にして、令和5年度以降の教育課程の編成を行う上で、生徒の実情やスキルに応じて柔軟に対応する必要がある。</p>	<p>①引き続き生徒が主体的に学ぶ学習活動を充実させるにはどのような取組ができるかを全職員で考えていきたい。また、各教室に「本時の目標」を提示できるカードがあるが、使用状況は教科により状況が異なった。来年度は、生徒の到達度を測るためにもその活用を全体に促し徹底させる。</p> <p>①HR教室に電子黒板を導入し、ICT機器を活用しやすくしている。教員間の情報共有を図ることで技能の向上を更に図り、視聴覚教材を効果的に利用することで生徒の理解度をあげる。</p> <p>②新学習指導要領の実施に伴い、「単元の指導と評価の計画」を作成したが、実際の生徒の既習事項や知識とかけ離れたものになっていないか検証し、再編統合による新校準備も見据えながら本校の生徒の実情にあったものを作成していく。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①社会の一員として行動するための規範意識を高めるとともに、国際的な視野を養いながら社会貢献に対する意識を育む。</p> <p>②生徒一人ひとりの状況に応じた相談体制を強化するとともに、活動を通して主体的に行動できる人材を育成する。</p>	<p>①他者の感じ方や考え方を考慮した行動をとれるように指導する。</p> <p>①生徒会各委員会の活動を活発にする。</p> <p>②生徒をチームで支える体制を整える。</p> <p>②部活動参加の機会を増やし、加入率を上げる。</p>	<p>①生徒に自己の行動を振り返る機会を持たせる。</p> <p>①各種委員会の活動においても生徒が主体となって計画が立てられるように支援する</p> <p>②校内の情報共有を盛んにし、生徒が主体的に活動できる支援のあり方を考える。</p> <p>②部活動発表の場と機会を増やし、未加入者が体験する機会を増やす。</p>	<p>①生活アンケートで、他者の感じ方や考え方を考慮した行動をとれるとの回答が60%以上であったか。</p> <p>①生徒が自ら考えて活動することができたか。</p> <p>②生徒が主体的に活動できる支援を行えたか。</p> <p>②部活動の発表の場を各学期1回以上設けることができたか。</p>	<p>①アンケートでは、他者を思いやってルールを守った行動がとれたと回答した生徒が98%であった。</p> <p>①生徒会本部の生徒があいさつ運動やメッセージ掲示を通して、全校生徒に働きかける場を作った。</p> <p>②SCや個別支援体制を充実し、生徒情報共有会2回、伊勢原養護学校と連携研修を2回実施した。</p> <p>②二学期末に希望する文化部、教科の発表会を掲示、映像で行った。</p>	<p>①対面指導ができない場合の生活指導が課題である。</p> <p>①生徒会本部の活動をもとに委員会も活性化させた。</p> <p>②情報共有会及び養護学校連携事業を継続する等、すべての生徒が主体的に活動できる支援体制を引き続き充実する。</p> <p>②周知等の不足で準備が十分できない部分もあったが、活動が制限される状況が続く時の試みとして検証していきたい。</p>	<p>①生徒の自治活動が生徒を成長させていくので、このような活動を継続して行ってほしい。</p> <p>①子どもたちの自己決定を大切にする取り組みを充実させることが自立した生活態度や規範意識の高まりにつながると考える。</p> <p>②部活動の発表などの写真をホームページに掲載して広報に努めてほしい。</p>	<p>①他者に配慮した行動については個人差があり、路線バスや路上での思いやりのある行動が評価される生徒もいる一方、学びに向かう態度や交通事故が多いといった課題がある。効果測定をさらに具体化し、判断力を向上させる必要がある。</p> <p>①生徒会からのメッセージの掲示と、部活動紹介用のポスターの募集、掲示について生徒会本部生徒たちを中心に行った。</p> <p>②個別の生徒の状況を踏まえた支援について組織的に気づきを得るための取組として、生徒情報共有会の活用や特別支援学校との連携を推進することができた。今後、教育相談については情報共有に努めるとともにさらに複雑化する課題に対応するために組織強化を推進することが課題である。</p> <p>②ホームページやPTA広報誌等を通じて、文化発表会や球技大会の様子を伝えた。実演等は十分に伝えきれなかった。</p>	<p>①学校全体として、生徒自らがTPOを重視し、目的を明確にしたうえで主体的・計画的に行動し、習慣づけることを重視し、健康観察、厚商手帳、あいさつ、スマホ利用、交通ルールといった強化項目を掲げ、教育活動のなかで積極的に位置づけるとともに、状況を具体的に把握できる手立てを検討する。</p> <p>②外部との関係性において得た情報を、組織的にスピード感をもって共有化し、生徒の支援体制に活用する。風通しの良い職場風土を大切にし、校内での日常的な情報共有をさらに深め、縦割りや個々の人間関係が情報共有の障壁にならないように留意する。</p> <p>②内容を新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、いくつか考えさせ、感染状況が厳しい状態でも何らかの形で公表できるようにする。また、広報活動を強化し、取組の状況を地域へより効果的に発信する。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施)	総合評価(3月29日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<p>①社会的・職業的に自立させ、即戦力として社会で活躍できる人材を育成する。</p> <p>②企業から信頼される実績を積み上げるとともに、進学指導の充実を図る。</p>	<p>①職業理解・上級学校理解を早い時期から進め、進路意識を高める。</p> <p>②分野別ガイダンスを充実させ、コロナ禍の中でも可能性を追求し、生徒の個々に応じた適切な進路指導を展開する。</p>	<p>①年間を通じた計画的な進路面談、ガイダンス、見学会等を行う。</p> <p>②外部機関や企業、上級学校対応を充実させ、最新の進路情報を生徒、学年に伝えられるよう努める。</p>	<p>①生徒の進路意識がガイダンスや面談を通して高まったかをアンケートにて確認する。</p> <p>②卒業時点での進路未決定の生徒数の変化、1学期における学習成績の状況等を分析する。</p>	<p>①ガイダンス後のアンケートから生徒の進路への意識が高まったことが確認できた。</p> <p>②進路未定の割合を把握しながら進路指導、就職指導を行うことができた。</p>	<p>①きめ細かなアンケート集計、データ集約を実施していきたい。</p> <p>②年度途中から学習状況を把握し、担任との連携を図って個々の状況理解と進路指導を結び付けていくことが不可欠である。</p>	<p>①生徒が希望と意欲を持ち進路決定をできるように適切に取り組んでおり評価できる。</p> <p>①できる限り数値で目標および達成状況が明示できるようにしてほしい。</p> <p>②生徒が正確な情報をつかみ取る力を身につけられるよう導いてほしい。</p>	<p>①生徒の実態に合わせた進路ガイダンス企画を提案できた。アンケート結果からも実施前後で生徒の進路に対する意識が高まったことが確認できる。</p> <p>②担任と連携した進路面談や進路指導を行うことが概ねできた。学習状況の把握と生徒個々の進路希望の実現に向けた指導についてやや課題が残った。</p>	<p>①ハローワーク、進路ガイダンス業者を活用した企画をベースにして、生徒の実態をよく理解している職員による細部の修正を加えた進路ガイダンスをさらに推進していきたい。その際事前事後のアンケート分析を丁寧に行いたい。</p> <p>②定期的な生徒の学習状況把握を怠らず、生徒個々の進路活動と合わせたきめ細かな個別指導を行う必要がある。</p>
4	地域等との協働	<p>①地域に開かれ、地域と共にある学校を実現する。</p> <p>②地域連携部会の意見を取り入れ、実現可能な取組についてスピード感をもって充実させる。</p>	<p>①広報PR活動及び実践的な教育活動等を通じ、専門高校としての魅力と特色を積極的に伝え、地域により深く理解してもらおう。</p> <p>②コロナ禍を踏まえた地域交流活動及びPTA活動を推進し、関係諸機関との連携により地域に開かれた学校づくりを行う。</p> <p>②地域と連携して生徒の安全で安心な生活を維持する。</p>	<p>①前年度の検証を踏まえた広報計画を立案し、対象と内容を明確化した広報活動を実施する。</p> <p>①中学校等訪問、説明会、個別相談会等について、中学生の進路選択時期、社会情勢及び校内事情を踏まえ、計画的・効果的に実施する。</p> <p>②出前講座及びPTA等の各種活動を充実させ、地域に教育資源を提供する。</p> <p>②外部講師や実習等を実施し、地域の教育力を本校に提供してもらおう。</p> <p>②防災体制を構築するとともに、DIG、避難訓練等に生徒を積極的に参加させる。</p>	<p>①前年データおよび新入生アンケートの評価内容を活用した広報計画を実施できたか。</p> <p>①入学者選抜倍率が1.1倍以上、説明会等実績が保護者中学生共に前年を上回り、参加者から評価を得たか。</p> <p>②出前講座、PTA活動、外部講師活用、チャレンジショップの活動回数が前年以上となったか。</p> <p>②感染状況に対応した活動ができたか。</p> <p>②アンケート等により生徒の防災意識の高まりを読み取ることができたか。</p>	<p>①年間PR計画のもと広報活動をすすめてきた。前年データや学校説明会・体験入学時の保護者・中学生のアンケートも活用した。</p> <p>①学校説明会・体験入学、個別相談会の参加者は、前年度を下回ったが、募集人員158名に対して倍率は1.1倍を超えた。</p> <p>②チャレンジショップのほか地域への貢献活動の多くは中止や延期となったが、家庭科、商業科では外部講師による出前講座を実施した。</p> <p>②シェイクアウト訓練、避難訓練を通して防災意識を高めることができた。今後より実態に即した方策を用いて防災意識の向上に努める。</p>	<p>①今後もコロナウィルス感染症の状況をふまえて柔軟に対応していく。学校紹介の動画配信やオンラインによる説明会なども検討する。</p> <p>①新校の学校目標、総合ビジネス科の教育内容・教育課程を明確にし学校紹介など広報計画を立て実施する。</p> <p>②PTA理事会はほぼ計画通り開催した。コロナ禍における地域貢献活動について検討する。消毒や換気など感染対策を十分に講じ実施する。</p> <p>②仮設校舎からグラウンドまでの動線の確保を意識させた避難訓練を行う。避難所運営委員会を開催し、地域との連携をより進めていく。</p>	<p>①募集定員以上の入学希望者を確保できたことは新校に向けて良いイメージにつながっていく。引き続き広報活動に取り組んでほしい。</p> <p>②コロナ禍でもPTA活動に可能な限り取り組んでおり、評価できる。</p> <p>②より多く地域に出ていく機会を確保してほしい。</p> <p>②地域の回覧板等を利用して学校の情報発信やPRにつとめ、地域と共にある学校を目指してほしい。</p>	<p>①年間の学校PR計画をベースにコロナウィルス感染症の状況をふまえて柔軟に対応した。総合ビジネスの紹介動画もホームページにアップした。今後、学校ホームページをより一層充実させる。</p> <p>①全公立展、公私合同説明・相談会の中止に伴い、学校説明会を開催した。やや遅くなったが体験入学2回、個別相談会2回、ウィークデー説明会1回を開催した。参加者は、昨年度よりやや下回ったもののアンケートは概ね高評価であった。最終倍率1.11倍で目標を達成した。</p> <p>②家庭科、商業科で外部講師による出前授業を実施した。3学年では、卒業前に社労士による講座、近隣のホテルでのテーブルマナー講座を実施した。PTAでは、理事会の開催、可能な範囲で委員会活動を実施することができた。</p> <p>②シェイクアウト訓練・避難訓練等を実施し、防災に対する意識付けはできた。コロナ禍にあって実際に避難することができず、机上確認となった。生徒の防災意識の向上にまでは至らなかった。</p>	<p>①8・9月の体験入学、10・11月の学校説明会、中学校訪問など従前の形に戻すほうがよいと考える。状況によっては学校紹介のページ・紹介動画の充実、オンライン説明会、学習塾に対する説明会などを計画する。</p> <p>①新校における「総合ビジネス科」の教育内容、系・コースの方針を明確にし、中学校・地域に広報活動を行う必要がある。説明会実施後のアンケート内容もすみやかに分析し次の計画に活かせるようにする。</p> <p>②リカレント講座、出前講座、外部講師の活用、チャレンジショップなど可能な限り実施する。PTA活動、地域貢献活動なども従前の形に戻すと同時に、コロナ禍における活動も十分検討の上、活動できるものについては実施する。</p> <p>②新型コロナの影響もあり、形式的な防災訓練が数年続いた。次年度は、DIGへの生徒参加や避難訓練の在り方を見直し、生徒が確実に帰宅できる訓練など実効力のある防災計画を策定していく。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①安全で安心な信頼される学校を維持する。</p> <p>②不祥事防止を徹底し、信頼に根ざした学校づくりを推進する。</p>	<p>①校内の施設・設備を点検し必要な備品・物品を整理し環境整備を行う。</p> <p>②事故不祥事防止を徹底し、教職員の実践的指導力を向上させる。</p>	<p>①仮設校舎の移転に伴い必要・不要な備品・物品を選別し順次、移動を行う。</p> <p>②日常的な啓発活動や研修会等を通じて、不祥事防止に向けた意識の醸成を図る。</p>	<p>①必要な物品・備品を仮設校舎へ移動し不要な物品・備品を廃棄することができたか。</p> <p>②日常的な啓発活動や研修会等を通じて、不祥事防止を徹底できたか。</p>	<p>①備品・物品を整理し、移動廃棄できた。</p> <p>②不祥事防止研修会などを通して意識付けができた。</p> <p>マニュアルや事例を活用することで事故防止に努めた。</p>	<p>①新校に向けて更なる備品・物品の整理を行う。仮設校舎での施設・設備を再点検し、よりよい環境の構築を図る。</p> <p>②研修を継続して行う。より自分のこととして捉えられるよう討議などを活用する。</p>	<p>①新校への準備は大変だと思うが、生徒のために頑張ってもらいたい。</p> <p>②不祥事防止指導、というネガティブなイメージがあるので、サービス向上などという名称で研修を行ってはどうか。</p>	<p>①仮設校舎への移動が落ち着き、必要・不必要な物品の選別を明確にした。資源を有効に活用するとともに更なる不要物品を廃棄し、新校に向けての準備を進める。</p> <p>②研修を継続して行うことにより、職員相互で課題を指摘しあうなど、意識を向上させることができた。今後も時宜を得たテーマ設定をすることで形式的な取組にならないよう工夫が求められる。</p>	<p>①仮設校舎という限られた施設を有効に活用できるよう事前準備に力を入れる。新校に必要な物品の洗い出し、購入、廃棄準備計画を立て、実行していく。</p> <p>②不祥事防止会議について、新たな課題に対する理解を深め、行動変容につなげるプログラム編成を検討し、実施後は振り返りとして効果測定を行い成果と課題を確認する。</p>